

外国籍区民及び日本国籍区民意識・意向調査結果 概要版

資料 3-2

令和4年3月9日
地域振興部地域振興課

1 調査の概要

(1) 調査目的

区内在住の外国籍区民と日本国籍区民に対して、生活実態や区に対する意見・要望を把握し、現状の分析や今後の多文化共生・国際化推進の取り組みに繋げる。

(2) 調査の種類

調査名	調査対象
1 外国籍区民調査	区内在住の満18歳以上の外国籍区民5,000名
2 日本国籍区民調査	区内在住の満18歳以上の日本国籍区民2,000名

(3) 調査方法と回収状況

- ① 調査地区：江東区全域
- ② 抽出方法：居住地及び国籍ごとに住民基本台帳から無作為抽出
(対象者数の比率に応じて発送数を設定)
- ③ 調査期間：令和3年7月20日(火)～8月13日(金)
- ④ 調査方法：郵送による配布及び回収
- ⑤ 回収率：外国籍区民 30.3% / 日本国籍区民 46.0%

2 外国籍区民調査の内容

(1) 調査票：28 ページ、合計 37 問（属性 9 問を含む）

【内訳】

1 属性	9 問	4 日常生活	5 問
2 日本語の状況	5 問	5 防災関連	3 問
3 江東区の定住意向と各サービスの評価	8 問	6 地域とのつながり	7 問

(2) 関連する設問ではクロス集計を行い、傾向の把握を実施。

3 日本国籍区民調査の内容

(1) 調査票：8 ページ、合計 24 問（属性 6 問を含む）

【内訳】

1 属性	6 問	4 防災関連	2 問
2 江東区の定住意向と各サービスの評価	5 問	5 地域とのつながり	10 問
3 日常生活	1 問		

(2) 関連する設問ではクロス集計を行い、傾向の把握を実施。

4 共通設問の比較

外国籍区民と日本国籍区民との共通設問 12 問を比較することで、意識・意向の相違を浮き彫りにし、把握することで、今後の取り組みに生かしていく。

5 アンケート結果からみえる考察

(1) 江東区在住外国人アンケート回答者の属性分析

回答数で一番多かった国籍は「中国」(38.9%)であり、在留資格では永住者や定住者などの「身分に基づく在留資格」(50.1%)、居住地区では「城東地区」(49.0%)、居住年数では「1～3年未満」(22.4%)となっている。

(2) 日本語の状況

日本語の話すと聞くに着目すると、「できない」と回答した外国籍区民は約2割で日常生活でも困りごとが多くなる傾向であるが、一方で、日本語学習意欲が高いことがわかる。

<課題>

「日本語教育の推進に関する法律」では、日本語教育を推進する責務を負う者として国・自治体・事業主を明示していることから、日本語を学べる環境を整備する必要がある。

(3) 江東区の定住意向と各サービスの評価

- ① 定住意向は、「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合わせると9割を超える。
- ② 社会制度に関する情報など各サービスの認知度は低く、情報を取得しにくいいため、外国籍区民の困りごとに繋がっている状況が読み取れる。
- ③ 情報取得手段として、「区報」「区ホームページ」「SNS」が比較的高い傾向である。

<課題>

やさしい日本語や多言語翻訳を使用した案内方法及び多様な媒体を活用する周知方法を検討していく必要がある。

(4) 日常生活

- ① 社会保障制度の理解、医療機関でのコミュニケーションに困難を感じる人が多い。
- ② 日常生活の困りごとについて、5割以上の人が友人や家族に相談している。
- ③ 日本国籍区民からの差別は46.4%が感じており、仕事や外出時などの場面が多い。

<課題>

やさしい日本語を使用してコミュニケーションをとることの意識啓発や区以外にも、「東京都つながり創生財団」等のサポートがあることについて周知する必要がある。また、偏見や差別をなくすために情報発信等、相互理解を支援する必要がある。

(5) 防災関連

- ① 外国籍区民の4割以上が避難所を知らない状況である。
- ② 居住年数が少ない人や町会・自治会に加入していない人は、避難所を知らない割合が高い。

<課題>

有事に備えるため、多様な媒体により避難所や災害への備えの重要性を周知することや、地域との繋がりを築くための検討が必要である。

(6) 地域とのつながり

- ① 地域活動への参加意向は高いが、情報が少ないため活動に参加できていない。
- ② 町会・自治会に加入している外国籍区民は、日本国籍区民との交流機会が多くなる。
- ③ 外国籍区民は日本の理解に努めようとしている一方、日本国籍区民は相互理解の不足から漠然と外国籍区民の増加に不安を抱いている。

<課題>

やさしい日本語を推進し、コミュニケーションのきっかけとなり得るお祭りやイベントなどを通じて地域内での交流を促すことで、相互理解を深める必要がある。